

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1996年度

1997年3月

柏原市教育委員会

は し が き

埋蔵文化財の発掘調査は、過去の人々が現在に残してくれた痕跡をたどることによって、その当時の姿を明らかにしようとするものです。しかし、過去の人々はあまり多くのものを残してくれていないために、私たちが明らかにできるのは、過去の人々の本当の姿のほんの一握りにすぎません。そこから、どれだけ多くのことを読み取ることができるか。私たちは、そのことを肝に銘じながら発掘調査に取り組んでいます。

そして発掘調査から明らかになった過去の人々の姿やその土地の姿から、その土地の歴史を知り、歴史について考える。そこからさまざまなことが見えてきます。それらを現在の私たちの生活に活かし、未来へと伝えていくことが重要だと考えます。

一件一件の発掘調査で明らかにできることは少ないかもしれませんが。しかし、その調査の積み重ねによって、柏原市の歴史が徐々に明らかになってくるのです。柏原市には多数の遺跡があり、それらが生み出した豊かな歴史的環境があります。この豊かな歴史的環境を未来へ伝えていくことが、現代を生きる私たちに課せられた課題であると思います。

今後とも、埋蔵文化財の調査にご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成9年3月

柏原市教育委員会
教育長 舟橋 清光

例 言

- 1、本書は、柏原市教育委員会が平成8年度に国庫補助事業（総額2,250,000円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。
- 2、調査は、柏原市教育委員会社会教育課 安村俊史を担当者とし、平成8年4月12日に着手し、平成9年3月31日に終了した。
- 3、本書には、平成8年1月1日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち14件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条-2および3に基づく届出・通知がなされたものは358件、その中で発掘調査を実施したものは50件、国庫補助事業として実施したものは25件である。
- 4、本書の編集・執筆は安村が担当したが、遺物の項の一部は槇原美智子が担当した。
- 5、本書、図中の方位は座標北、標高はT. P. で表示した。
- 6、調査・整理の参加者は下記のとおりである。

米田 博	橘谷和夫	長西茂樹	北野 重	石田成年	寺川 款
奥野 清	谷口鉄治	分才隆司	尾野絹江	藤戸康代	阪口文子
槇原美智子	百合藤厚子	石橋智成	有江マスマ	乃一敏恵	橋口紀子
松本和子	村口ゆき子				

目 次

はしがき

例 言

目 次

1996年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧

第1章 本郷遺跡	1
96-1次調査	2
第2章 船橋遺跡	3
96-2次調査	4
第3章 大泉遺跡	5
96-1次調査	6
96-5次調査	7
96-6次調査	11
第4章 大泉南遺跡	13
96-1次調査	14
96-2次調査	15
第5章 安堂遺跡	17
96-1次調査	18
第6章 玉手山遺跡	19
96-1次調査	21
96-5次調査	22
96-6次調査	23
第7章 田辺遺跡	26
96-5次調査	27
96-6次調査	28
第8章 河内国分尼寺跡	29
96-1次調査	30

調査対象位置図

図版

報告書抄録

插图目次

图-1	本郷遺跡 調査対象地位置図	1
图-2	本郷遺跡96-1次調査 調査区位置図	2
图-3	本郷遺跡96-1次調査 東壁土層図	2
图-4	船橋遺跡 調査対象地位置図	3
图-5	船橋遺跡96-2次調査 調査区位置図	4
图-6	船橋遺跡96-2次調査 土層図	4
图-7	平野遺跡・大泉遺跡 調査対象地位置図	5
图-8	大泉遺跡96-1次調査 調査区位置図	6
图-9	大泉遺跡96-1次調査 北壁土層図	6
图-10	大泉遺跡96-1次調査 出土遺物	6
图-11	大泉遺跡96-5次調査 調査区位置図	7
图-12	大泉遺跡96-5次調査 土層図	8
图-13	大泉遺跡96-5次調査 出土遺物①	9
图-14	大泉遺跡96-5次調査 出土遺物②	10
图-15	大泉遺跡96-6次調査 調査区位置図	11
图-16	大泉遺跡96-6次調査 平面図・土層図	12
图-17	大泉遺跡96-6次調査 出土遺物	12
图-18	大泉南遺跡・太平寺遺跡 調査対象地位置図	13
图-19	大泉南遺跡96-1次調査 北壁土層図	14
图-20	大泉南遺跡96-1次調査 調査区位置図	14
图-21	大泉南遺跡96-2次調査 調査区位置図	15
图-22	大泉南遺跡96-2次調査 土層図	16
图-23	大泉南遺跡96-2次調査 出土遺物	16
图-24	安堂遺跡・高井田廃寺・高井田横穴群 調査対象地位置図	17
图-25	安堂遺跡96-1次調査 土層模式図	18
图-26	安堂遺跡96-1次調査 調査区位置図	18
图-27	玉手山遺跡 調査対象地位置図①	19
图-28	玉手山遺跡 調査対象地位置図②	20
图-29	玉手山遺跡96-1次調査 東壁土層図	21
图-30	玉手山遺跡96-1次調査 調査区位置図	21
图-31	玉手山遺跡96-5次調査 土層図	22
图-32	玉手山遺跡96-5次調査 調査区位置図	22

図-33	玉手山遺跡96-5次調査	出土遺物	22
図-34	玉手山遺跡96-6次調査	調査区位置図	23
図-35	玉手山遺跡96-6次調査	西壁土層図	24
図-36	玉手山遺跡96-6次調査	出土遺物①	24
図-37	玉手山遺跡96-6次調査	出土遺物②	25
図-38	田辺遺跡・田辺古墳群	調査対象地位位置図	26
図-39	田辺遺跡96-5次調査	調査区位置図	27
図-40	田辺遺跡96-5次調査	平面図・土層図	27
図-41	田辺遺跡96-6次調査	調査区位置図	28
図-42	田辺遺跡96-6次調査	土層模式図	28
図-43	田辺遺跡96-6次調査	出土遺物	28
図-44	松岳山古墳群・河内国分尼寺跡	調査対象地位位置図	29
図-45	河内国分尼寺跡96-1次調査	調査区位置図	30
図-46	河内国分尼寺跡96-1次調査	土層図	31
図-47	河内国分尼寺跡96-1次調査	出土遺物	31
図-48	平尾山古墳群	調査対象地位位置図	32
図-49	原山遺跡・蒼田山古墳群	調査対象地位位置図	33

図 版 目 次

図版1	本郷遺跡96-1次調査
図版2	船橋遺跡96-2次調査
図版3	大泉遺跡96-1次調査
図版4	大泉遺跡96-5次調査
図版5	大泉遺跡96-5次調査
図版6	大泉遺跡96-6次調査
図版7	大泉南遺跡96-1・2次調査
図版8	大泉南遺跡96-2次調査
図版9	安堂遺跡96-1次調査
図版10	玉手山遺跡96-1・5・6次調査
図版11	田辺遺跡96-5・6次調査
図版12	河内国分尼寺跡96-1次調査

1996年度 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
本郷96-1	本郷5丁目834-2	101.56	岡本秀夫 造酒八重子	個人住宅建設	安村	4.17	本書P.2掲載。
船橋96-1	古町地先	3,378	建設省大和川工事事務所 所長 古賀省三	浄化施設建設	安村 石田	3.27	2箇所計11㎡を調査。 少量の土師器が出土。
船橋96-2	大正1丁目407-7	185.62	田中造幸 田中恭二	個人住宅建設	安村	10.2	本書P.4掲載。
平野96-1	平野2丁目390-1、 1045	683.72	日本ポットグループ㈱ 代表 本田 勝	共同住宅建設	石田	6.27	3×4×3.4mを調査。 遺構・遺物なし。
平野96-2	平野2丁目490-25	74.56	北畑憲雄	個人住宅建設	安村	8.14	1.5×1.5×0.7mを調査。 遺構・遺物なし。
平野96-3	法善寺4丁目281-1、 282-丙の一部	990.10	森田 享	共同住宅建設	石田	10.7	2×3×1.8mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉96-1	平野2丁目163-1	287.62	田中一光	個人住宅建設	安村	3.12	本書P.6掲載。
大泉96-2	平野2丁目354-甲	78.73	角川 悠	個人住宅建設	安村	5.17	1.5×2×0.5mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉96-3	平野2丁目291-1	708.89	中野工業㈱ 代表 中野 悠	宅地造成	石田	5.22	3×2×3mを調査。 遺構・遺物なし。
大泉96-4	平野2丁目165-1	122.44	中野 清	長屋建設	石田	6.3	1×3×0.5mを調査。 古墳～中世の遺物。
大泉96-5	大泉4丁目214-8	86.03	福居俊宏	個人住宅建設	安村	8.26～ 8.28	本書P.7掲載。
大泉96-6	大泉4丁目179-2	458.80	増井八敏	個人住宅建設	安村	9.19	本書P.11掲載。
大泉南96-4	大泉4丁目18番地先 ～太平寺2丁目1番 地先	1,159.1	柏原市長 山西敏一	道路建設	北野	1995. 12.18～	調査継続中。
大泉南96-1	大泉4丁目633-1	259.80	谷口和美	個人住宅地造成	安村	2.19	本書P.14掲載。
大泉南96-2	大泉4丁目376-1	146.16	松井宏王	個人住宅建設	安村	4.12	本書P.15掲載。
大泉南96-3	大泉4丁目365、375	1,254.74	横田有利	共同住宅建設	石田	11.7～	11.7に試掘。 12月未現在調査中。
太平寺96-1	太平寺1丁目63-1	369.30	中辻信太郎	事務所・店舗・倉庫・ 作業場付住宅建設	安村	5.30	1.5×3.5×1.5mを調査。 遺構・遺物なし。
太平寺96-2	太平寺2丁目526-3 の一部	270.60	山本和男	個人住宅建設	安村	12.2	1.5×1.5×0.8mを調査。 遺構・遺物なし。
太平寺96-3	太平寺2丁目162-1、 164-1	874.14	高井利造 高井 数	宅地造成	石田	12.13	55㎡を調査。 古墳～奈良時代の遺物。
安堂96-1	安堂町335-6	89.10	松岡弘富	個人住宅建設	安村	3.21	本書P.18掲載。
安堂96-2	安堂町373	498.36	岡山豊化学 代表 山本 勲	倉庫建設	石田	10.1	2×2.5×2mを2箇所 調査。奈良時代の 遺物。

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
安堂96-3	安堂町915-1	339.72	山下真弓	共同住宅建設	石田	12.20	12.20に試験。 古墳～奈良時代の遺構・遺物。
高井田麩寺96-1	高井田97-101	490.03	谷口伊三雄	宅地造成	石田	4.1	1.5×1.5×0.7mを調査。 遺構・遺物なし。
平尾山古墳群96-3	平野815-甲地75筆	266,400	大阪府知事 中川和雄	森林整備工事	北野	1995. 6.26～	12月末に調査中。
平尾山古墳群96-1	種多尾畑4706、4707	507.91	已放政典	個人住宅建設	安村	2.5	1.5×1.5×1.1mを調査。 遺構・遺物なし。
平尾山古墳群96-2	青谷2104他	2,465.09	社会福祉法人 明寿会 理事長 仲村匡哉	老人福祉施設建設	石田	9.17	3箇所、計16.8㎡を調査。 遺構・遺物なし。
平尾山古墳群96-3	熊多尾畑2730-1 他35筆	28,540.61	馬場建設㈱ 代表 馬場 實	農地改良	石田	11.5	1.2×1.5×0.5mを試掘。 古墳石室石材？を確認。
平尾山古墳群96-4	安堂町793	700	柏原市長 山西敏一	植栽	北野	12.10～ 12.11	1×8mを2箇所調査。 遺構・遺物なし。
高井田横穴群96-1	高井田621-11	138.42	橋本佐平	個人住宅建設	安村	5.9	1.5×1.5×0.7mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山96-1	玉手町115-41	199.70	山下幸吉	個人住宅宅地造成	安村	2.22～ 2.23	本書P.21掲載。
玉手山96-2	片山町29-2、44、 45-1～3	1,180.23	㈱ツツイ 代表 関井治行	分譲住宅建設	石田	3.7～ 3.18	2×20×1.5mを調査。 古墳～平安時代の遺構・遺物。
玉手山96-3	片山町34-2	3,441.90	石川修一	教会集会所建設	石田	4.3	0.5×2.5×0.4mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山96-4	旭ヶ丘1丁目267-1 の一部	450.28	八幸建園 代表 東野正己	宅地造成	石田	4.22～ 4.24	2箇所、計8㎡を調査。 古墳～奈良時代の遺物。
玉手山96-5	玉手町149-6、115、 180	96.58	半田晴夫 半田祐子	個人住宅宅地造成	安村	5.20	本書P.22掲載。
玉手山96-6	片山町216	442.67	辻野公二	個人住宅建設	安村	5.20～ 5.21	本書P.23掲載。
玉手山96-7	旭ヶ丘1丁目464-6、 280-1他	2,505.65	㈱辰巳工務店 代表 辰巳正夫	宅地造成	石田	5.23～ 5.27	3箇所、計17㎡を試掘。 古墳～奈良時代の遺物。
玉手山96-8	旭ヶ丘1丁目242-7	1,373	㈱大見産業 代表 橋山 晃	宅地造成	石田	7.3	2箇所、計8.2㎡を調査。 遺構・遺物なし。
玉手山96-9	円明町498の一部	153.02	奥田丈弘	個人住宅建設	安村	10.21	1.5×1.5×0.6mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山96-10	玉手町115-38	141.36	小角 晃 小角勝彦	個人住宅建設	安村	11.19	1×2×1.9mを調査。 遺構・遺物なし。
原山96-1	旭ヶ丘3丁目4778- 1他	39,304.48	学校法人 玉手山学園 理事長 江端文行	校舎建設	石田	2.27	2×3×0.8mを調査。 遺構・遺物なし。
菅田山古墳群96-1	旭ヶ丘4丁目4985- 1他13筆	43,200	日本道路公団大阪管理 局南大阪管理事務所	道路拡幅	石田	4.16～ 5.15	10箇所、計300㎡を試掘。 弥生時代の遺物。
田辺96-1	園分本町5丁目1592 の一部	213.13	松井 健	個人住宅建設	安村	7.17	1.5×1.5×0.3mを調査。 遺構・遺物なし。
田辺96-2	園分本町7丁目833- 1他70筆	14,605	柏原市長 山西敏一	プール建設	北野	8.1～ 10.7	300㎡を調査。 弥生～五世の遺構・遺物。

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
田辺96-3	田辺1丁目1050-1、1059、1040-1、1035-1の一部	297.45	高田博史	個人住宅建設	安村	8.7	1.5×1.5×0.7mを調査。遺構・遺物なし。
田辺96-4	国分本町4丁目438、6丁目748-2の一部	499.61	中島トキ子	共同住宅建設	石田	10.15	2箇所、計7㎡を調査。遺構・遺物なし。
田辺96-5	田辺2丁目2080-191	79.80	緒方 募	個人住宅建設	安村	11.11	本書P.27掲載。
田辺96-6	国分市場2丁目1818-1の一部	349.97	伊藤政治郎	個人住宅建設	安村	12.9	本書P.28掲載。
田辺古墳群96-1	国分東条町2381 他11筆	3,428.56	山下建設㈱ 代表 山下武次	宅地造成	石田	3.12	1×2×2mを調査。遺構・遺物なし。
松岳山古墳群96-1	国分市場1丁目1617-24	100.27	裏野 明	個人住宅建設	安村	7.22	1.5×1.5×0.5mを調査。遺構・遺物なし。
国分尼寺跡96-1	国分東条町2604	187.28	尾崎 肇	個人住宅建設	安村	9.4	本書P.30掲載。

(但し1996年1月1日から12月31日に実施した調査)

第1章 本郷遺跡



图-1 本郷遺跡調査対象位置图

96-1次調査

- ・調査対象地 柏原市本郷5丁目834-2
- ・調査期間 1996年4月17日
- ・調査面積 2.3㎡/101.56㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査対象地南西部に、1.5m四方の調査区を設定して、調査を実施した。

調査の結果、地表下30cmまでは表土、それ以下に褐色土がみられ、近世以降の盛土と思われる。その下層に灰色土がみられ、近世の耕作土に相当するものと考えられる。褐色土と灰色土の間には、部分的に黄褐色砂礫土が挟まれているが、その性格は不明である。

灰色土以下は、淡黄灰色細砂、褐色粗砂、淡黄褐色細砂と続く。褐色粗砂は、鉄分を含む堅く締まった土層であり、おそらく人為的に叩き締められたものと考えられる。その上下の砂層は、均質な砂であり、若干の湧水が認められる。大和川の洪水に伴う砂層であろう。

褐色土・灰色土から土師質土器・陶磁器・寛永通宝などが少量出土しており、近世の土層と考えられる。それより下層からは遺物が出土していないため、砂層の時期は明らかにできなかった。

これまでの調査地周辺の調査状況と同様に、大和川の洪水砂層の上に近世の耕作面が確認されるという調査結果であった。調査は地表下1mまで掘り下げ、工事による影響が認められないことを確認したので、それ以上の掘り下げは行わなかった。

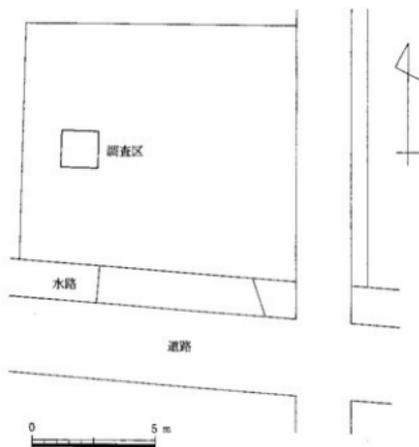


図-2 調査区位置図

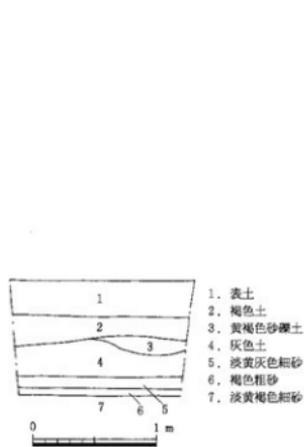


図-3 東壁土層図

第2章 船橋遺跡

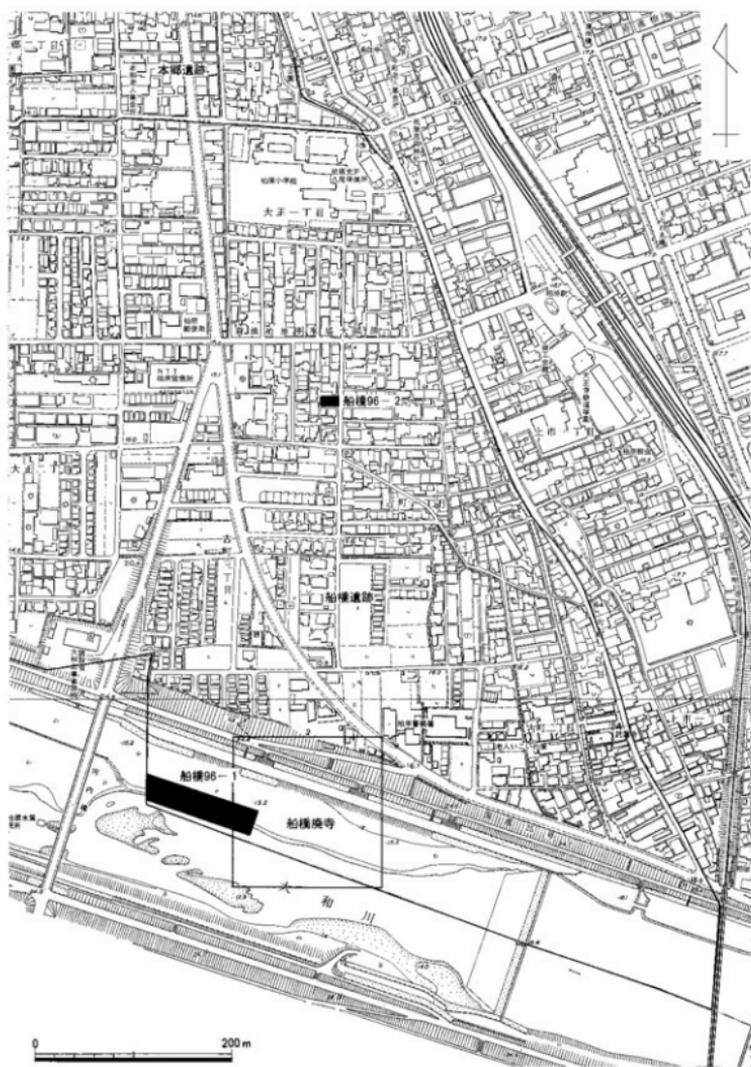


图-4 船橋遺跡調査対象地位位置图

96-2次調査

- ・調査対象地 柏原市大正1丁目407-7
- ・調査期間 1996年10月2日
- ・調査面積 3.0㎡/185.62㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査対象地に、1.5m×2mの調査区を設定して調査を実施。第3層淡褐色粗砂からは近世の陶磁器が出土している。地表下50cmでは、第7層淡灰色シルトに掘り込まれた方形の落ち込みが3基検出された。埋土は淡灰褐色シルトであるが、遺物が出土していないため、時期は特定できない。さらにその下層、地表下80cm前後では、第9層灰色シルトに掘り込まれた方形の落ち込みを2基確認した。埋土は褐色粗砂であり、第V様式の弥生土器、庄内式土器の壺片が出土している。上層の落ち込みはほぼ南北方向であるが、下層の落ち込みは約45°の斜方向を示している。

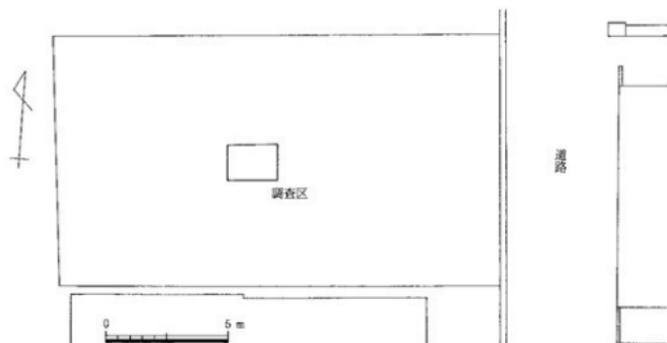


図-5 調査区位置図

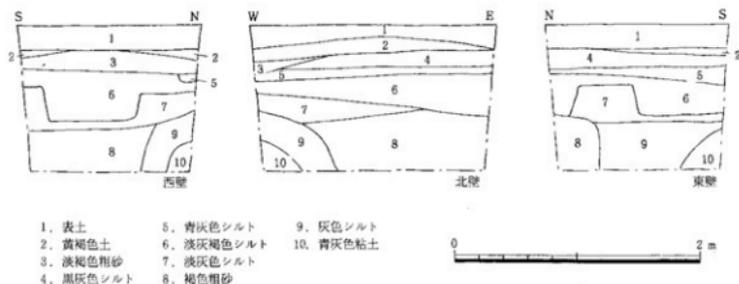


図-6 土層図

96-1次調査

- ・調査対象地 柏原市平野2丁目163-1
- ・調査期間 1996年3月12日
- ・調査面積 2.3㎡/287.62㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査対象地西寄りに1.5m四方の調査区を設定し、地表下80cmまで掘り下げて調査を実施した。調査の結果、地表下20~30cmまでは最近の耕作土がみられ、その下40cmまでは淡灰色土、さらに下層には灰褐色砂質土がみられ、灰褐色砂質土は地表下80cm以下にさらに続いている。遺構は認められなかったが、灰褐色砂質土からは、古墳時代の須恵器・土師器、および中世の土師器などが出土しており、かなり長期間にわたる遺物包含層と考えられる。

図化した遺物は、須恵器杯身(1・2)と土師器小皿(3)である。1は口縁端部を欠損する。

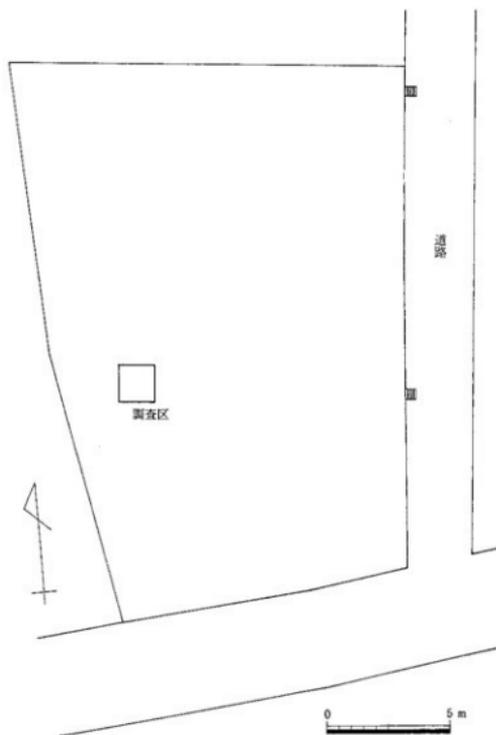
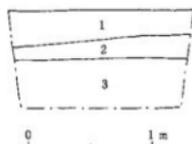


図-8 調査区位置図

外面底部は回転ヘラケズリ調整。2は口縁部だけの破片。口径12.2cm。3はくさり礫を含むヘソ皿タイプ。口径8.8cm。

遺物の量は少なく、6~7世紀のものが中心であった。



1. 耕作土
2. 淡灰色土
3. 灰褐色砂質土

図-9 北壁土層図

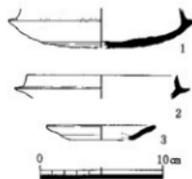


図-10 出土遺物

96-5 次調査

- ・調査対象地 柏原市大泉4丁目214-8
- ・調査期間 1996年8月26日～28日
- ・調査面積 3.0㎡/86.03㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、聖下小学校の南側に位置し、周辺では、これまでに古墳時代を中心とする多数の遺構・遺物を確認しており、大泉遺跡の中心部に当たると推定される。調査地の現況は、北側に接する道路面より約2m低い宅地となっている。調査は、対象地の東寄りの浄化槽予定地に1.5×2mの南北方向に長い調査区を設定し、実施した。

地表下20～30cmには盛土がみられ、その下層では、西側半分に大きな攪乱坑がみられる。第3層淡灰褐色土は時期を明らかにできないが、中世以降の土層である。淡灰褐色土を取り除くと、非常に堅く締まった褐色砂礫土が広がっており、緩やかに西側へ傾斜している。過去の調査で、奈良時代以降の道路面ではないかと指摘されている面である。しかし、この面は調査地周辺一帯に広がっているようであり、今回の調査区内でも傾斜が認められることから、道路面とすることには疑問も残る。しかし、奈良時代以降の遺構面に相当することは間違いのないであろう。その下の第5層灰褐色砂質土からは、土師器杯(18)・鉢(20)、丸・平瓦(33・34)などが出土しており、奈良時代の遺物が出土している。

第6層暗褐色砂礫土も堅く締まった土層であり、やはり道路面ではないかと考えられている土層に相当するが、その上面は平坦にはならないようである。その下層の灰褐色砂質土、青灰色砂質土からは多数の遺物が出土しており、図化した遺物の大半はこの3層から出土している。遺物は6世紀後半から8世紀にかけての須恵器、土師器、鉄滓、獣骨などが出土しており、瓦はまったく含まれていない。また、青灰色砂質土下層では7世紀代の遺物が中心となる。その下の黒灰色粘土は、6世紀後半から7世紀前半の遺物のみを出土するが、量は少なく、その厚さも確認できていない。

以上のように、6世紀から8世紀にかけての比較的多くの遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。

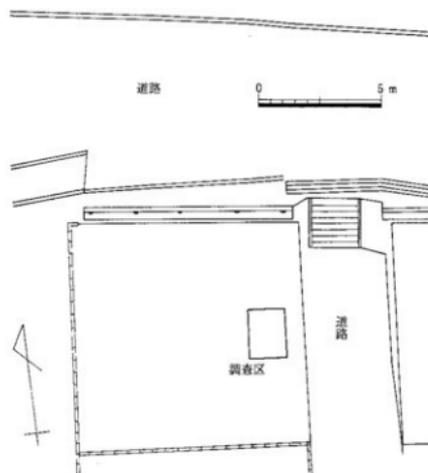


図-11 調査区位置図

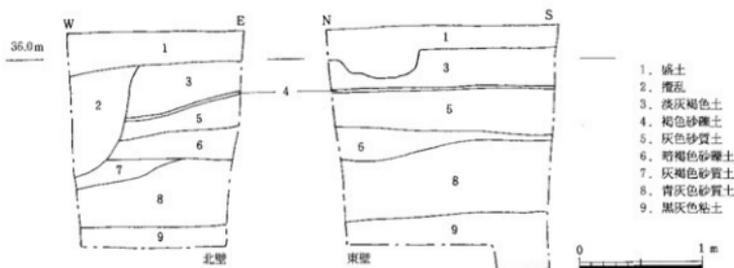


図-12 土層図

遺物は、須恵器、土師器、瓦、籬羽口、鉄滓、獣骨などが出土している。18・20・33・34は第5層灰色砂質土から出土、6・28はあげ土から出土、他は第6～8層から出土している。

1～10は須恵器。1～4は杯蓋。2の天井部にはヘラ記号がみられる。3は内面にかえりを有する杯蓋であるが、焼き歪みがみられ、内面には甕の体部片が融着している。5は蓋。壺の蓋であろう。6・7は杯身。6は短く内傾する立ち上がり有する。7は低い高台を有する。8は台付壺の底部。外面は、回転ヘラケズリとカキ目調整後、ナデが施される。内面底部に石灰質系の付着物がみられる。9は人甕の口縁部。口縁は外反し、端部で厚く肥厚する。外面端部近くに1条の凸線がみられる。10の外面は平行叩きからナデ調整。

11～28は土師器。11～18は杯。口縁は外方へ屈曲し、端部は内側へ肥厚し、丸くおさめるものが多くみられる。15・16は内面の斜放射暗文が確認できるが、その他の杯では摩滅のためか、暗文が確認できない。11の外面底部は指頭調整、12・15・17はヘラケズリ調整である。19・20は鉢。19は外方に開く口縁部が、沈線状に内折する端部を呈する。20の口縁部は外方へ屈曲し、端部は内側へ肥厚し、丸くおさめる。体部外面にヘラケズリを施す。21～23は高台を有する皿。22の内面には斜放射暗文がみられる。24は高杯の脚部。内外面ともにシボリメ状の痕跡がみられる。25～28は鍋。いずれも口縁部は強く外反する。25は把手付きの鍋であるが、把手は破損している。25・28は体部外面ナデ調整、26・27はタテ方向のハケメで調整する。体部内面は、25・26がヨコ方向のナデ、27もナデ調整であるが、工具の当たり痕がみられる。28の内面はヨコ方向のハケメで仕上げる。27の口縁部内面にもヨコ方向のハケメがみられる。

29～32は籬羽口。完形のもののみはみられない。断面はすべて円形で、体部外径は5.5～6.6cm、孔径は2.3～3.1cmを測る。先端には熔融金属が付着し、か壁の厚さは外面の色調の変化から3.5cm前後と推定される。羽口の先端は炉壁から3cm前後突出していたようであり、いずれも強い熱を受けている。胎土は粗く、多数の砂粒を含んでいる。

33の丸瓦凸面には縄目叩きがみられ、凹面には粗い布目が残る。34の平瓦の凸面には、縦方向の縄目叩きが施され、1cmあたり4本の縄目を有する。凹面には粗い布目が残る。一枚作りの平瓦であろう。

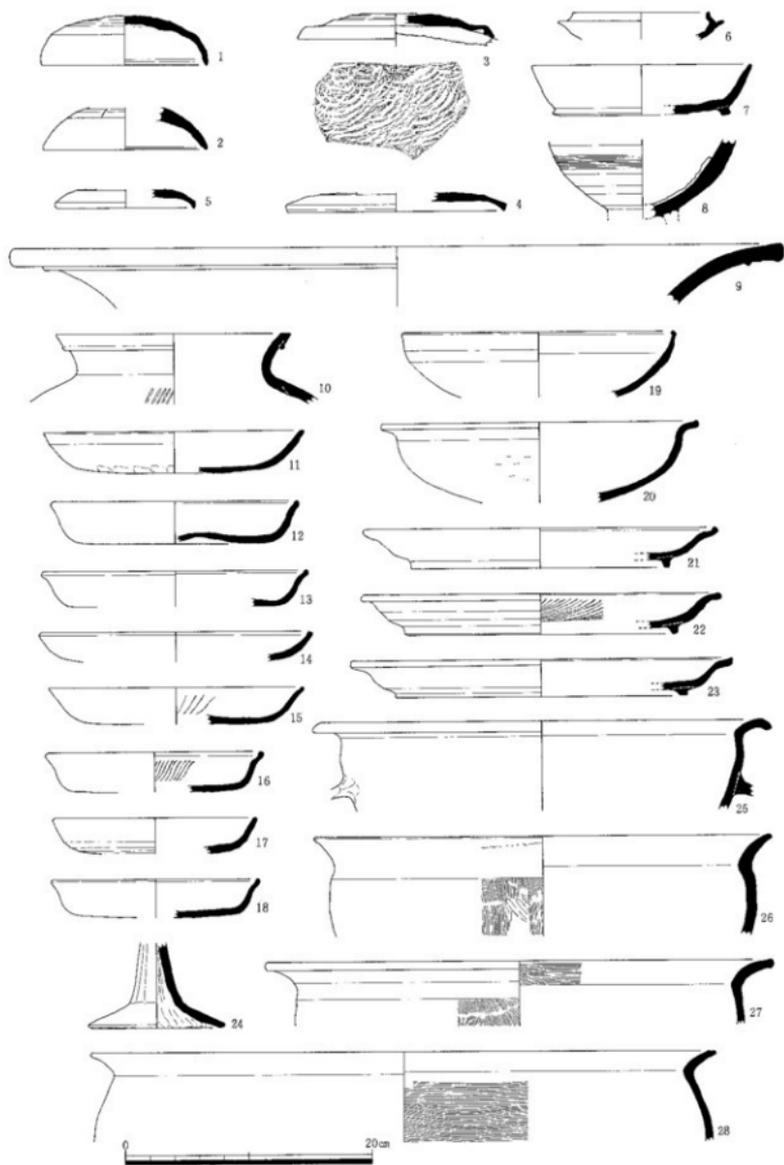


图-13 出土遺物①

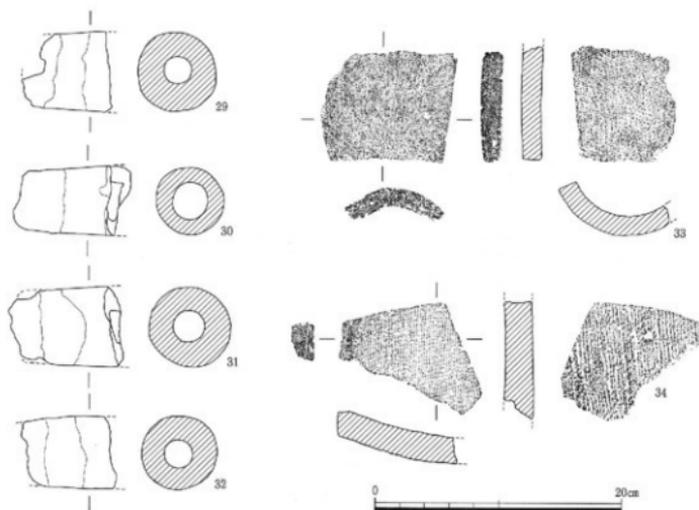


図-14 出土遺物②

鉄片は小片も含めて20点が出土している。最大のものは、長さ7.0cm、幅6.8cm、厚さ5.7cm、重さ271.5gを測る小形の椀形滓である。総重量は1480.4g。大半が第7層灰褐色砂質土から出土している。

獣骨は約30点出土しているが、遺存状態はあまり良好ではない。脚部や関節、歯などが認められる。総重量は333.0g。鑑定はしていないが、ほとんどが馬の骨と思われる。

遺物は6世紀後半から8世紀にかけてのものであるが、7世紀代の遺物は非常に少なく、6世紀後半を中心とする鍛冶関係の遺物を伴う時期と、比較的良好的土器が多数出土し、瓦を伴う8世紀代とに大きく2時期に分けることができる。

これまでの北側道路下への下水道管埋設に伴う調査や堅下小学校屋内運動場建設に伴う調査でも、鍛冶などの遺構を伴う大量の鍛冶関係の遺物の出土がみられ、それらは概ね6世紀後半を中心とする。また、大里寺と推定される大興廃寺に伴うと考えられる瓦や墨書土器、それに付随する土器類が出土しており、これらは8世紀前半を中心とする。今回の調査結果もこれまでの調査と同様な傾向を示すこととなった。残念ながら遺構の確認はできなかったが、8世紀中頃と思われる面とそれ以後の面の2枚の堅く締まった面が広がっていることが確認できた。この面が道路遺構に関連するものかどうかは、今後の調査によって慎重に検討しなければならないが、整地面であることは確実と思われ、東高野街道の前身道路や奈良時代に行われた河内六寺への天皇の行幸などとの関連も視野に入れて検討していくべき課題であろう。

96-6 次調査

- ・調査対象地 柏原市大泉4丁目179-2
- ・調査期間 1996年9月19日
- ・調査面積 2.3㎡/458.80㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は鐸比古神社の参道南側に位置し、西側へ緩やかに傾斜する斜面上に立地している。調査地の敷地内には、現在も2棟の土蔵や井戸が残っている旧家である。

調査は調査対象地の東寄りに1.5m四方の調査区を設定して実施した。掘乱土、および灰褐色土を除去すると地表下約30cm前後で黄白色砂質土の地山に至る。遺構は地山面を確認され、調査区西端で直径約30cmの円形平面のビットが確認できた。深さは約10cm、やや北寄りに柱が立っていたようである。埋土はやや淡い灰褐色粘質土である。このビットを切って南北方向の溝状遺構がみられる。幅は北端で40cm、南端で20cmである。底面のレベル高に変化がみられないので、どちらに流れ

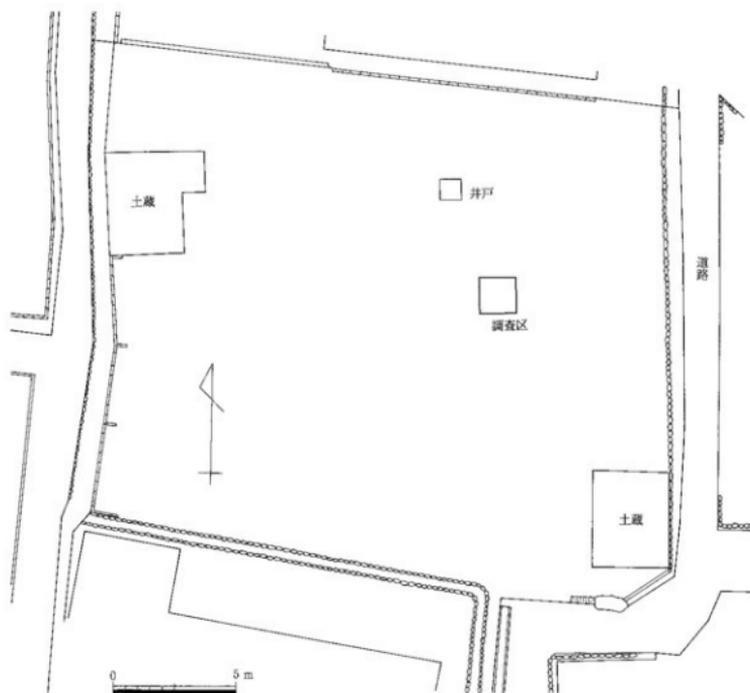


図-15 調査区位置図

ていたかは不明である。埋土は灰褐色粘質土である。また、調査区南東部に落ち込み状の遺構がみられる。深さは17cmを測る。埋土は褐色土である。

これらの遺構からはいずれも遺物が出土しておらず、その時期を明らかにすることはできない。しかし、後述するような遺物の出土から、おそらく中世の遺構と思われる。

遺物は地山直上から土師器や瓦質土器が出土している。瓦質の土釜（1）は、口縁外面に3条の凹線がみられ、その直下に水平にのびる罫が付く。内面にはヨコ方向のハケメが施されている。土師器小皿（2）は、上げ底気味の底部を呈し、口縁はまっすぐのびる。口径は8.6cm。外面は指頭調整、内面はナデ、口縁はヨコナデで仕上げる。

遺物は15世紀頃のものと思われる、おそらく遺構もその時期のものと思われる。

調査前は、古墳時代の鍛冶関連遺構や遺物が出土するのではないかと予想していたが、予想に反して、中世の遺構・遺物しか確認できなかった。しかし、これはこの地に古墳時代の遺跡が存在しないことを示すものではなく、これまでの周辺の調査結果から考えると、古墳時代の遺構が削平されたものと考えらるべきであろう。現状では、調査地周辺はひな段状の宅地となっており、おそらく、中世に現状のような造成がなされ、その際に、それ以前の遺構が削平されたのであろう。

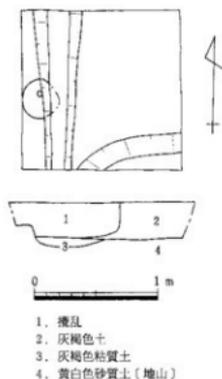


図-16 平面図・土層図

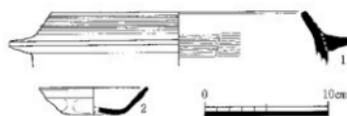


図-17 出土遺物

第4章 大県南遺跡

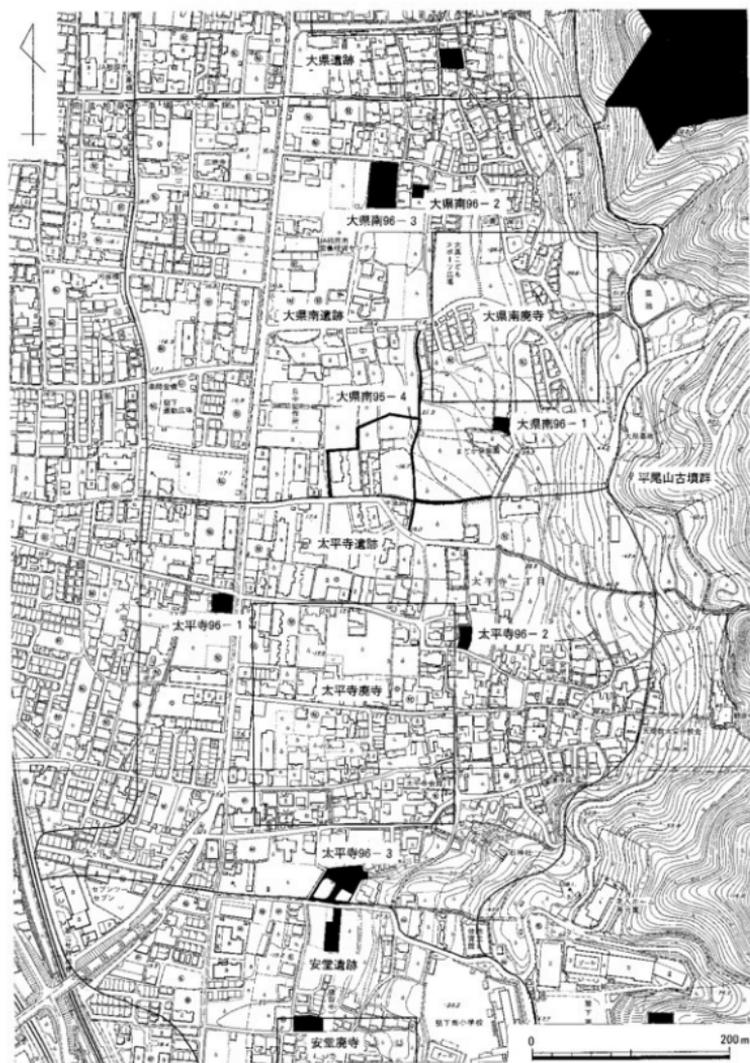


図-18 大県南遺跡・太平寺遺跡調査対象位置図

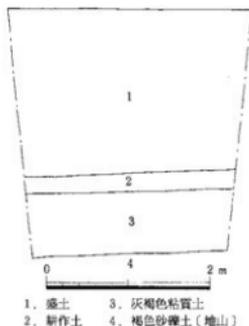
96-1次調査

- ・調査対象地 柏原市大泉4丁目633-1
- ・調査期間 1996年2月19日
- ・調査面積 6㎡/259.80㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査対象地の西端に、2×3mの調査区を設定し、調査を実施した。調査に際しては、調査依頼者から提供を受けた重機を使用し、掘削を行った。

調査の結果、地表下210cmまでは過去の造成に伴う盛土であり、それより下層に、旧耕作土である灰色土が25cm前後の厚さで見られる。さらに下層には70cm前後の厚さの灰褐色粘質土が見られ、少量の土師器・須恵器を含んでいる。地表下3m前後で、褐色砂礫土の地山に至り、地山は緩やかに傾斜して、西側へ下がっている。

少量の遺物が出土したが、遺構は認められず、おそらく灰褐色粘質土も調査地東方からの二次的な盛土と思われる。擁壁工事を伴うため、工事中に立ち会ったが、遺構・遺物は認められなかった。



1. 盛土
2. 耕作土
3. 灰褐色粘質土
4. 褐色砂礫土(地山)

図-19 北壁土層図

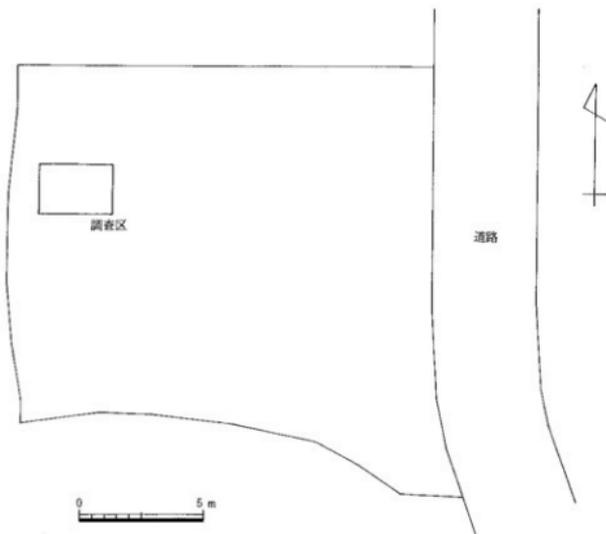


図-20 調査区位置図

96-2次調査

- ・調査対象地 柏原市大泉4丁目376-1
- ・調査期間 1996年4月12日
- ・調査面積 2.3㎡/146.16㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査対象地は、生駒山地西麓の扇状地上に位置する。これまでの周辺の調査では、調査地によって、かなり遺跡の深度に変化がみられ、いまひとつ遺跡の状況が把握できない地域である。

調査は、浄化槽予定地に1.5m四方の調査区を設定し、地表下80cm前後まで掘り下げて実施した。調査の結果、地表下20~30cmまで最近の耕作土がみられ、その下に黒灰色砂質土、灰褐色粘土と続き、南半では黒灰色砂質土下に堅く締まった花崗岩の風化した土層もみられる。遺構は、平面では確認できなかったが、南壁で花崗岩の風化土を切り込む幅60cm、深さ15cmの遺構を確認した。おそらく土坑であろう。遺構からは遺物は出土していないが、黒灰色砂質土からは6~8世紀の土師器・須恵器・鉄滓・獣骨などが出土しており、耕作土から中世の土師器・瓦器などが少量出土している。

1は弥生土器の甕。外面体部を平行タタキ、内面にハケメ調整を施す。口径13.6cm。

2は土師器甕。外面はハケメの後に横方向のヘラケズリを施し、内面は工具によるナデを施す。口径15.7cm。3も土師器の甕。口縁は弱く外反し、端部をつまみ上げている。体部は内外面とも同一原体によるハケメ調整、口縁部はヨコナデ調整であるが、口縁内面にはナデに先行するハケメがみられる。4は土師器の小形の碗。口径8.1cm。完形。平底から外反する体部に直立する口縁部をもつ。5は土師器の壺。丸味をもつ体部から外反する口縁部をもつ。端部は丸くおさめる。口径9.1cm。6は土師器の杯。やや平底気味の底部をもち、内湾する体部から口縁部は外反する。端部は面をもつ。口径10.9cm。7は土師器の甕。口縁部に円弧タタキ、体部にハケメ調整を施す。8は土師器の小皿。体部外面に弱い段がみられる。内外面ともにナデ調整。口径8.6cm。

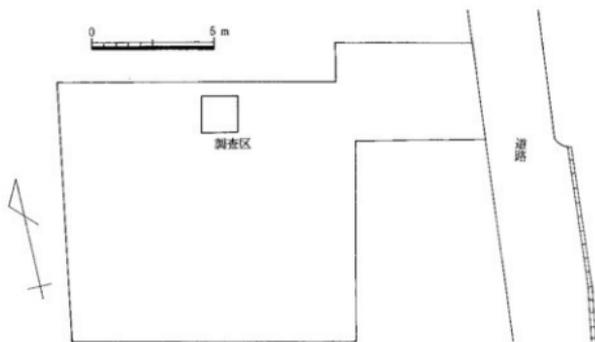


図-21 調査区位置図

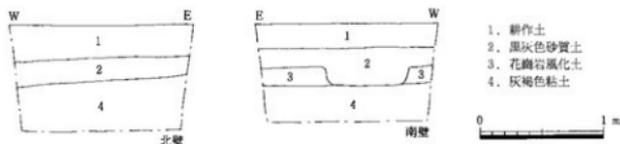


図-22 土層図

9は瓦器碗。内外面に密なヘラミガキ調整を施す。口縁端部は丸くおさめる。口径12.8cm。

10～13は須恵器杯蓋・身。蓋(10)は天井部から口縁部にかけて丸くならぬカーブを描いている。端部は丸くおさめる。天井部内面に円弧タキがみられる。口径14.6cm。杯身は立ち上がりが比較的高く、わずかに内傾している。11の口縁部は内傾する明瞭な段を有する。口径11.8cm。

14は用途不明の鉄製品。端部を欠損しているようであるが、U字状を呈し、長さ4.5cm、幅5.6cmを測る。断面は外側が薄く、内側が厚い長三角形形状を呈し、厚さは約0.3cmである。留金具かとも思われるが、用途不明である。土師器碗(4)の内部から出土した。

鉄滓は7点出土しており、最大のもので長さ3.1cm、幅2.7cm、厚さ1.3cm、重さ25.2gである。また、赤褐色を呈する鉄滓がみられ、酸化鉄を多く含んでいるのではないかと思われる。鉄滓の総重量は46.9gである。

獣骨は小片も含めて18点、総重量173.5gを測る。大半が馬骨と思われる。

工事は地盤改良工事を伴うものであったため、工事中に立ち会い、土師器や須恵器の出土をみた。遺物の大半は古墳時代のものであった。

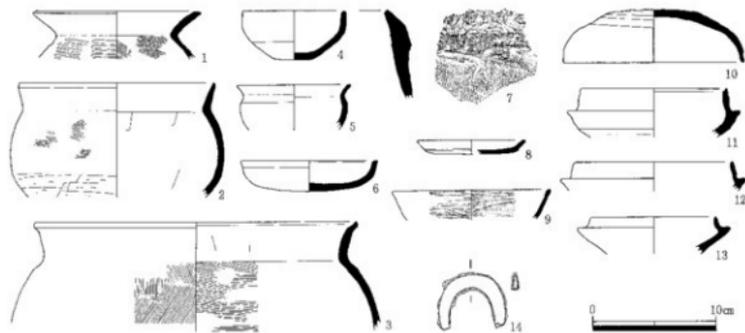


図-23 出土遺物

第5章 安堂遺跡

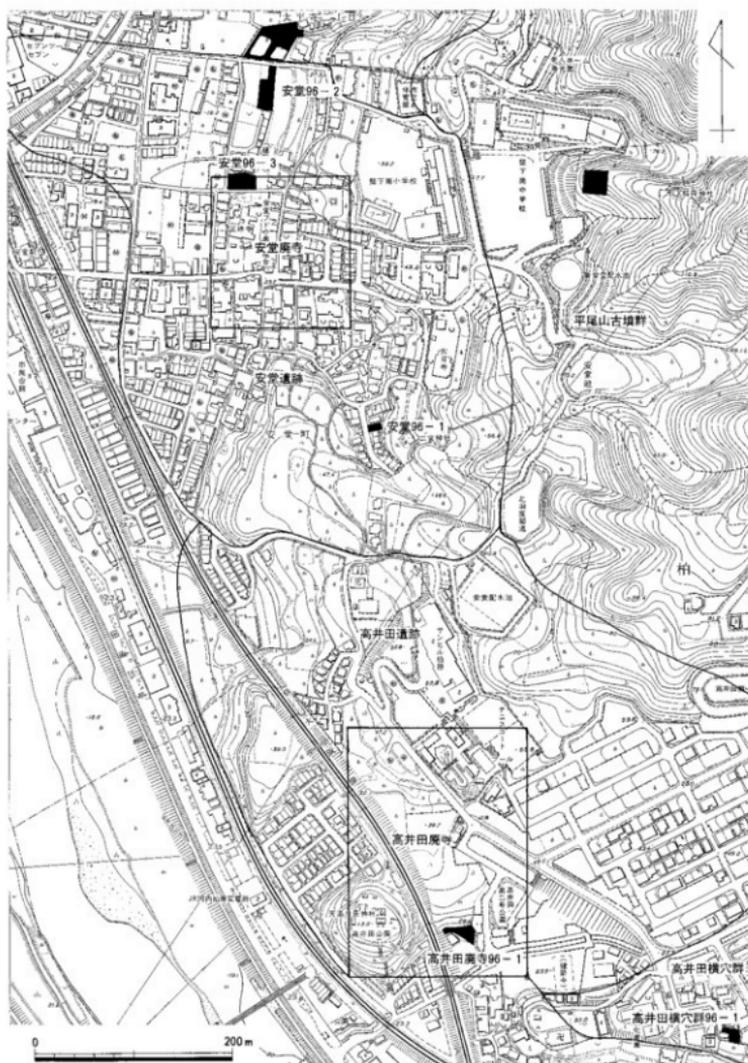


図-24 安堂遺跡・高井田廃寺・高井田横穴群調査対象地位位置図

96-1 次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町335-6
- ・調査期間 1996年3月21日
- ・調査面積 2.3㎡/89.10㎡
- ・調査担当者 安村俊史

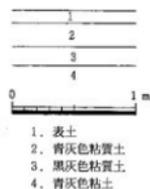


図-25 土層模式図

調査対象地西寄りに、1.5m四方の調査区を設定して調査を実施した。

調査の結果、地表下10cmまでは表土がみられ、それより下層は青灰色粘質土、黒灰色粘質土、青灰色粘土と続く。青灰色粘質土は過去の造成に伴う盛土と思われるが、黒灰色粘質土・青灰色粘土からは少量の陶磁器・瓦など、近世の遺物が出土している。遺構はまったく認められなかった。

土層の状況から考えると、池や谷筋のような湿地状の土地であったと考えられる。建物基礎深度の関係から、45cmの深さまでしか掘削しなかったが、周辺の調査状況から、さらに下層には、奈良時代や古墳時代の遺物包含層が存在するものと思われる。

今回の調査区では、近世の遺物を確認したのみであるが、周辺におけるこれまでの調査では、古墳時代の遺物包含層も粘質土であり、湿地状の地形を呈していたものと考えられる。このように、安堂遺跡の南半では、比較的遺物が出土するものの、いずれも湿地状の地形に伴うと考えられる粘質土からの出土であり、遺構に伴うものは少ない。集落は、さらに東・南側の台地上に存在したのであろうかと思われる。

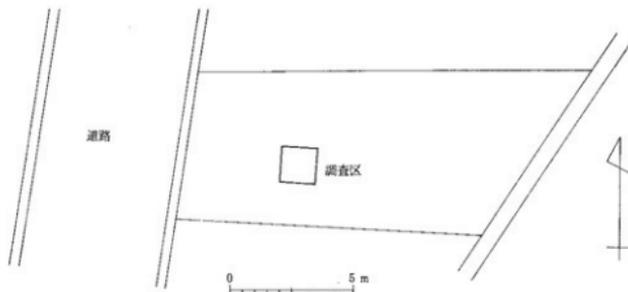


図-26 調査区位置図

第6章 玉手山遺跡

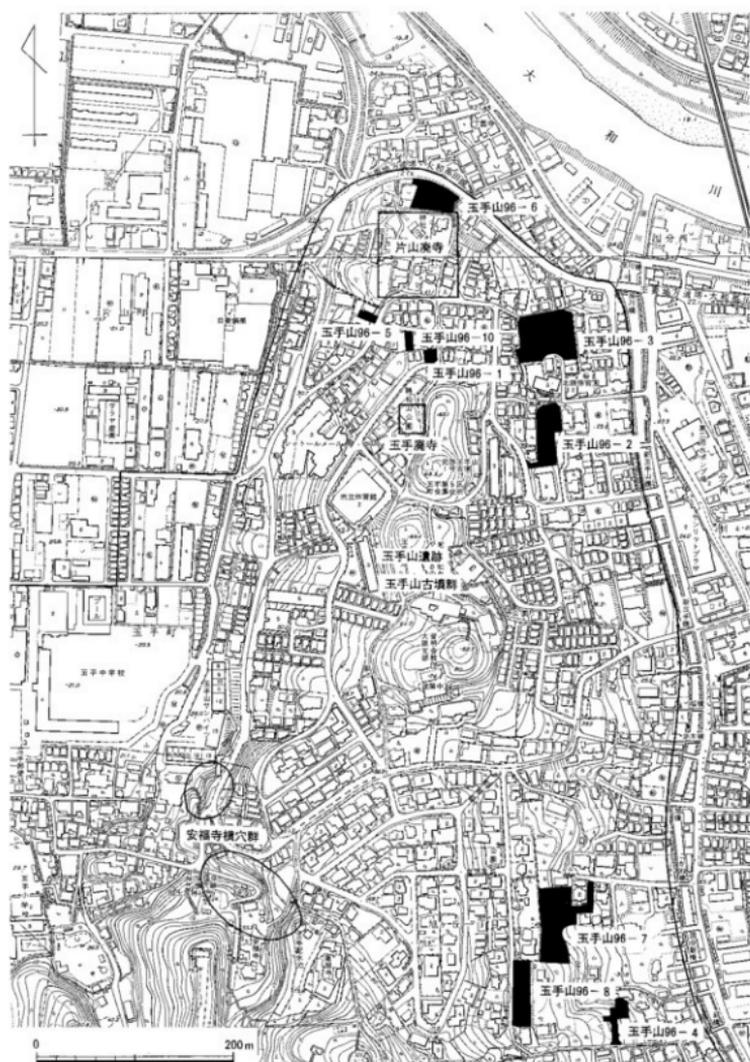
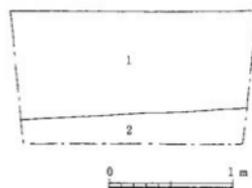


図-27 調査対象地位置図①

96-1次調査

- ・調査対象地 柏原市玉手町115-41
- ・調査期間 1996年2月22日～23日
- ・調査面積 3.0㎡/199.70㎡
- ・調査担当者 安村俊史



1. 盛土
2. 明灰白色凝灰岩〔地山〕

図-29 東壁土層図

擁壁を設置する予定であったため、調査対象地の東端に、
1.5m×2mの南北に長い調査区を設定して調査を実施した。

調査の結果、調査区南端では地表下80cmで、北端では90cmで

明灰白色凝灰岩の地山に至った。それ以上は、すべて最近の造成に伴う盛土であり、凝灰岩の地山も、造成時に削平されているようである。地山は調査区南西部で、垂直に落ち込んでおり、地表下170cmまで掘り下げたが、さらに深く続いている。おそらく、ひな段状の造成が行われたことによるものであろう。

遺構は認められなかったが、白色の小さい円礫やサヌカイトの原石が数点出土している。白色礫は、調査地のすぐ南側に存在する玉手山1号墳に伴うものと考えられる。

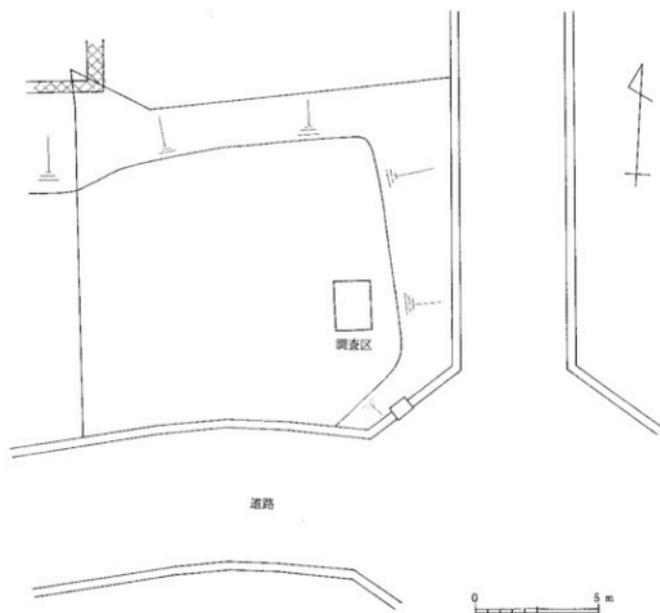


図-30 調査区位置図

96-5次調査

- ・調査対象地 柏原市玉手町149-6、115、180
- ・調査期間 1996年5月20日
- ・調査面積 2㎡/95.52㎡
- ・調査担当者 安村俊史



図-31 上層図

調査地は、玉手山丘陵北端近くの西斜面に位置し、82-5次調査区・82-6次調査区に隣接している。両調査区では、ともに南東から北西方向の幅1.5~1.8mの溝を検出しており、2本の溝は12mの間隔をおいて平行している。溝内からは、古墳時代中期の円筒埴輪やTK216型式の須恵器が出土しており、古墳の周溝ではないかと考えられている。古墳の周溝であるならば、前方後円墳の前方形、もしくは方墳と考えられる。今回の調査地は、この2本の溝の間に位置し、古墳であるならば、墳丘部分に相当するはずである。

調査は、調査対象地の南東部に1×2mの南北方向に長い調査区を設定し、地表下40cmまで掘り下げて実施した。地表下10cmまでは褐色土がみられ、最近の造成にともなう盛土であろう。その下層には円礫を多く含む灰褐色砂礫土がみられ、地表下40cm以下に続いている。褐色土から、少量の土師器・埴輪が出土している。灰褐色砂礫土からは遺物が出土しておらず、墳丘盛土の可能性が考えられる土層である。

図化できた遺物は、円筒埴輪底部の小片である。外面は左上がりのハケメ、内面はナデ調整が施され、底部は自重による屈曲がみられる。復元による底径14.5cm。

82-5次調査では、外面ヨコハケメの大形の円筒埴輪とタテハケメの小形の円筒埴輪が相伴しており、今回の出土埴輪は後者に相当する。どちらの円筒埴輪も、出土状況等から5世紀中葉頃のものと考えられる。

今回の調査では、古墳か否かを明らかにできなかったが、調査地周辺には、古墳時代中期の古墳が存在することが確実と思われる。

参考文献

柏原市教育委員会『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報・1982年度』1983

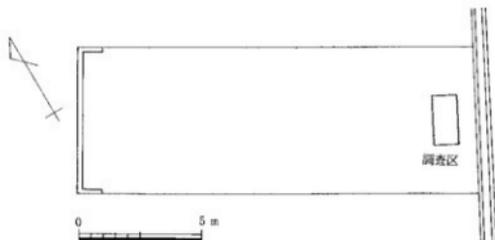


図-32 調査区位置図



図-33 出土埴輪

96-6次調査

- ・調査対象地 柏原市片山町216
- ・調査期間 1996年5月20日～21日
- ・調査面積 4.5㎡/442.67㎡
- ・調査担当者 安村俊史

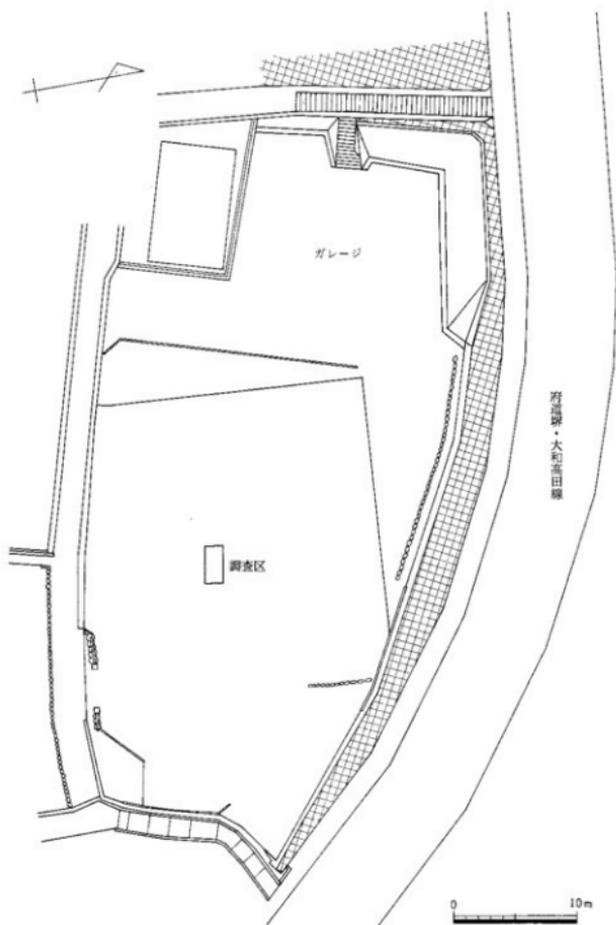


図-34 調査区位置図

調査地は、玉手山丘陵の北端に位置し、調査地の北側は大きく落ち込んで府道堺・大和高田線に至る。調査は、地山の標高が高いと推定される調査対象地の南寄りに1.5m×2mの調査区を設定して開始し、その後、長さを3mに拡張した。

地山は調査区南東部で地表下24cm、北西部で地表下58cmで検出され、北西側へ大きく落ち込んでいることが確認できる。埋土は上層から褐色土、灰色土、灰褐色粘質土と続く。褐色土は宅地造成に伴う盛土、灰褐色粘質土は古代から中世の瓦・土器を含んでおり、中世の整地層ではないかと考えられる。

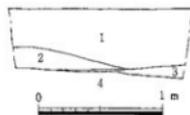
遺物は、すべて灰褐色粘質土から出土している。1は須恵器杯身。立ち上がりは短く、内傾している。口径11.2cm。2は瓦質の火舎。口縁は直立して大きく肥厚し、端部は面をなす。体部外面の一部にハケメがみられるが、詳細は風化のため不明。口径47.8cm。

3は左巴の巴文軒丸瓦。連珠は推定16個めぐると思われる。丸瓦との接合面には縦横のキザミメが施されている。4は均整唐草文軒平瓦。段額式で、全体を板ナデで仕上げている。

5は玉縁付の丸瓦。凸面に縄目タタキ、凹面に糸切り痕がみられる。6も丸瓦。凸面は板ナデ、凹面は布目が残る。端面・側面はヘラケズリ。

7・8は平瓦。7の凸面には、縄目が鋸歯状に施される。おそらく、縄目叩きの後、縄目をナデ消し、左下がりの縄目、右下がりの縄目の順に施されたものであろう。凹面は7本/cmの布目が残り、2.8cm前後の幅の横骨痕が残る。端面はヘラケズリ、側縁はヘラ切りのままである。8は凸面を4本/cmの縄目叩きの後に板ナデ、凹面は9本/cmの布目が残り、布の合わせ目がみられる。端面はヘラケズリ、側縁はヘラ切りである。

これらの遺物は、須恵器は古墳時代後期、瓦は白鳳期から中世、瓦質土器は中世のものと考えられる。



1. 褐色土
2. 灰色土
3. 灰褐色粘質土
4. 明黄褐色粘質土(地山)

図-35 西壁土層図

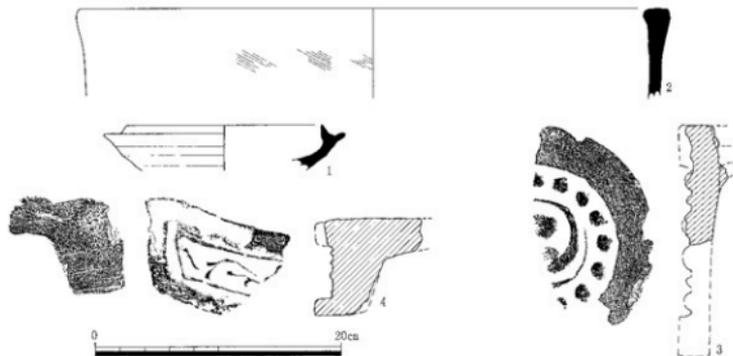


図-36 出土遺物①

瓦は、調査地の南側に存在した片山廃寺の瓦であろう。創建は白鳳期と考えられ、藤原宮と同範の軒丸瓦が出土している。廃絶は、室町時代と考えられており、今回の調査結果も、それと矛盾するものではない。瓦の出土した灰褐色粘質土は、おそらく片山廃寺廃絶後の整地に伴う土層であろう。

調査後、調査対象地の北半を中心に大規模な切土工事が行われたため、工事中に立ち会ったが、土層の変化はみられず、少量の瓦を採集するにとどまった。

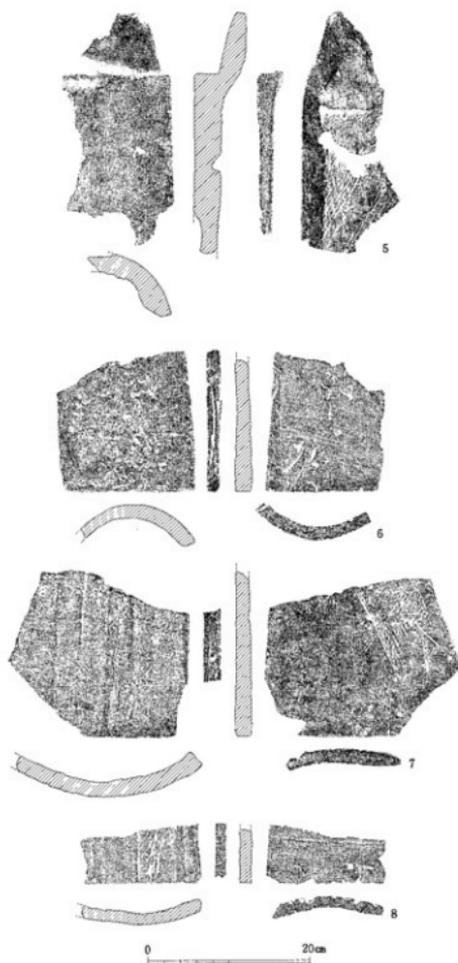


図-37 出土遺物②

第7章 田辺遺跡



图-38 田辺遺跡・田辺古墳群調査対象地位位置图

96-5次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺2丁目2080-191
- ・調査期間 1996年11月11日
- ・調査面積 2.3㎡/79.80㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、史跡田辺廃寺の南に位置し、田辺廃寺に関連する集落遺構が存在すると推定されている地域であるが、過去の削平が激しいようで、これまでの調査では、周辺地域ではあまり遺構が確認されていない。

調査は、1.5m四方の調査区を設定して実施した。現地表下20cmまでは表土、その下20cmは地山と同質の暗黄褐色粘質土がみられるが、これは宅地造成に伴う盛土であると思われる。暗黄褐色粘質土を除くと、黄褐色粘質土の地山に至る。この地山面を精査した結果、調査区北壁際と南壁際でビット状の遺構が3個確認された。いずれも壁面にかかっているため、全容は不明である。北壁際の東側のビットは、直径34cmの円形平面を呈し、ビット底部で直径10cm前後の円形の落ち込みがみられ、柱の大きさを示すものであろう。その西側に接するビットは、直径46cmの円形平面を呈する。南壁際のビットは、直径約40cmの円形平面を呈するものと思われる。深さは、5～10cmを残すのみで、埋土は、地山よりもやや灰色を帯びている。これらのビットは、掘立柱建物の柱穴と考えられるが、ビット内だけでなく、調査区内からは1点の遺物も出土していないため、遺構の時期は不明である。

このように、調査地周辺にも集落遺構が存在することが確認できたが、過去の削平によって、遺構の残存状況は極めて悪くなっている。今後の調査によって、遺構やその時期の確認を果していきたいと思います。

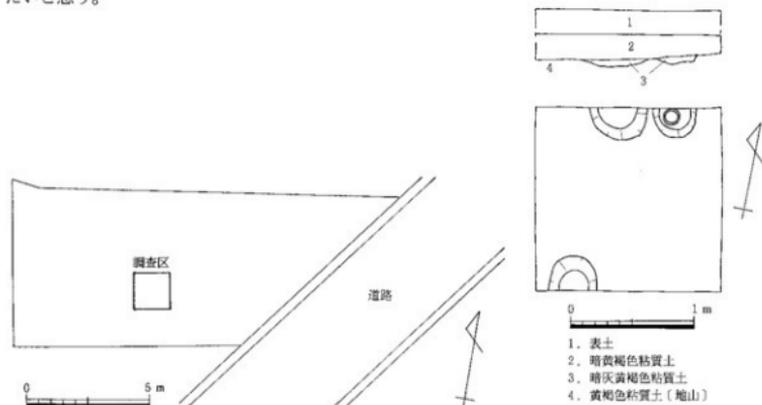


図-39 調査区位置図

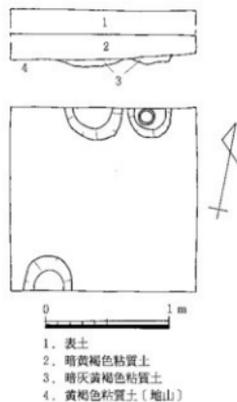


図-40 平面図・土層図

96-6次調査

- ・調査対象地 柏原市国分市場2丁目1818-1の一部
- ・調査期間 1996年12月9日
- ・調査面積 3.0㎡/349.97㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、田辺遺跡が立地する丘陵の東裾部に位置する。調査は、1.5m×2mの調査区を設定して実施したところ、上層から表土、旧耕作土、灰褐色砂質土の順に土層が確認できた。灰褐色砂質土には少量の土師器を含んでいるが、時期を明らかにできるものはなかった。最下層の黒灰色砂質土は、比較的多くの土師器・須恵器を含んでおり、7世紀前後の遺物包含層と考えられる。黒灰色砂質土を除くと、非常に堅く締まった暗赤褐色砂質土に至り、おそらく地山であろう。

遺物は、黒灰色砂質土から出土した須恵器の高台付の壺のみ実測図に示した。高台は低く、底部は厚い。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

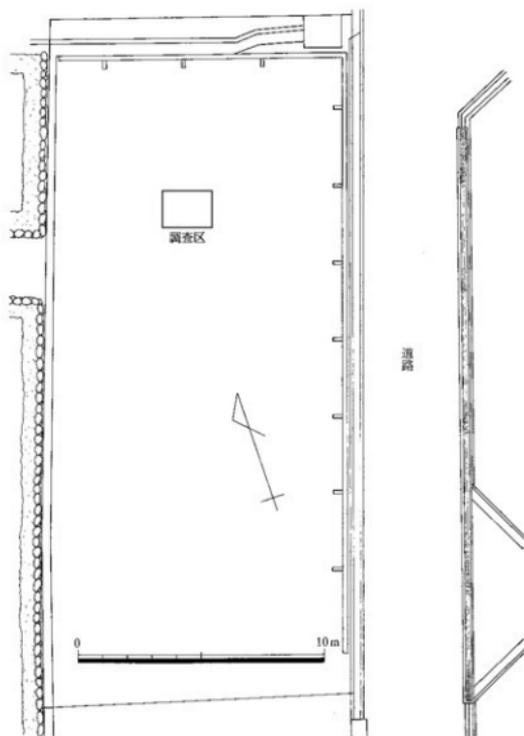


図-41 調査区位置図



1. 表土
2. 旧耕作土
3. 灰褐色砂質土
4. 褐色砂質土
5. 黒灰色砂質土
6. 暗赤褐色砂質土〔地山〕

図-42 土層模式図

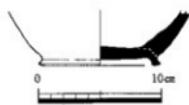


図-43 出土遺物

第8章 河内国分尼寺跡

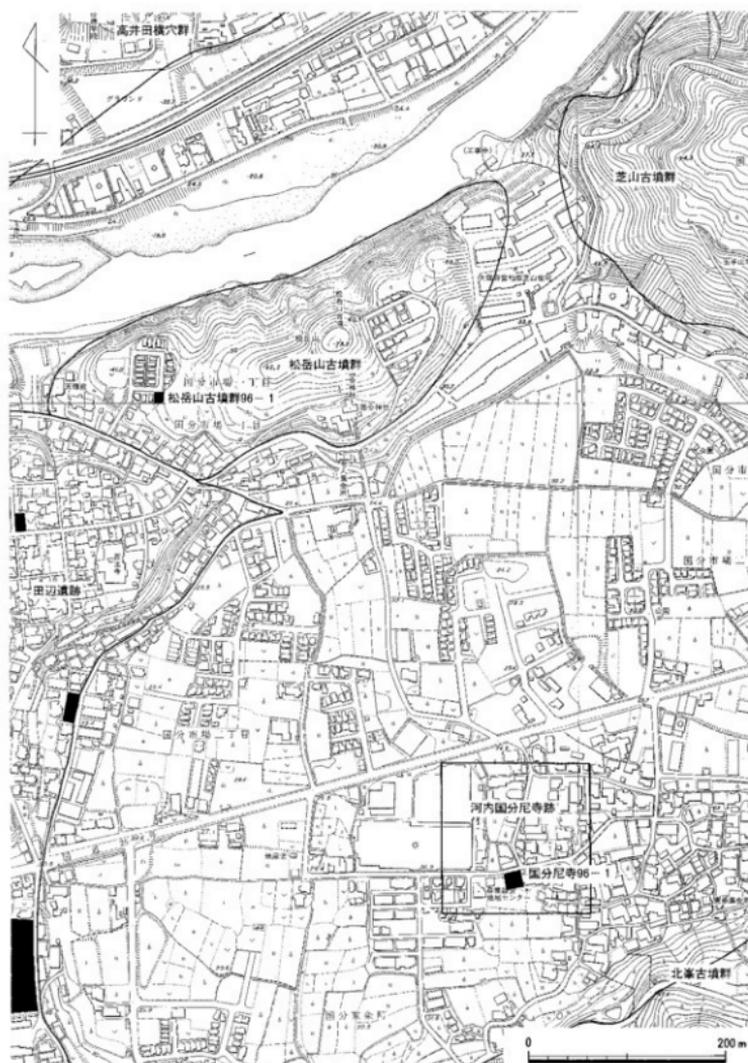


图-44 松岳山古墳群・河内国分尼寺跡調査対象地位置図

96-1 次調査

- ・調査対象地 柏原市国分東条町2604
- ・調査期間 1996年9月4日
- ・調査面積 2.3㎡/187.28㎡
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、河内国分尼寺跡推定地のほぼ中央南寄りに位置する。周辺の地形は、緩やかに北へ傾斜し、大和川の氾濫原へと続いている。調査は、対象地の南西部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。

土層は、地表下約10cmまでが表土、その下に盛土と考えられる黒灰色粘土がみられる。その下、地表下20～45cmにかけては耕作土と思われる淡灰色砂質土がみられ、近世の遺物を含んでいる。おそらく近世以後の耕作土であろう。その下には灰褐色砂質土がみられる。まったく遺物を含んでいないが、周辺の調査結果から、中世に相当する土層と思われる。この層からは、かなりの湧水がみられる。

地山は黄褐色粘質土で、南東部で最も高く、地表下50cmで検出される。地山面は、北および西側へ下がっており、北西部では地表下75cmまで掘り下げたが、地山を確認できていない。地山直上には、調査区の北西部のみに褐色砂質土が堆積しており、この土層から奈良時代の土師器、須恵器、瓦が出土している。地山の落ち込みは、遺構とは考えられず、自然地形であろう。

遺物は平瓦2点を図化した。1は3辺を残し、長さ37cmを測る。狭端縁と側縁はヘラケズリで仕上げるが、広端縁は瓦を自立させた際の自重によると思われる粘土の肥厚がみられる。凸面には1cmあたり2～3本の縄目叩きが施され、凹面には布目が残る。2は広端縁と側縁の隅角部の小片である。凸面は4本/cmの縄目叩き、凹面には布目がみられる。端縁、側縁ともにヘラケズリ調整であり。凹面の周囲にもヘラケズリを施している。どちらも一枚作りで、奈良時代のものと思われる。

奈良時代の遺物は、国分尼寺に伴うものと考えてよいであろう。しかし、いまだに国分尼寺の伽藍は不明である。

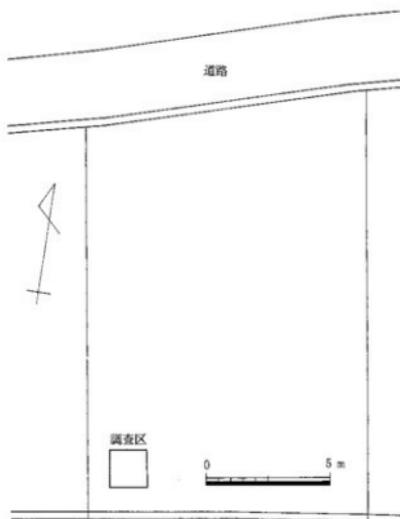
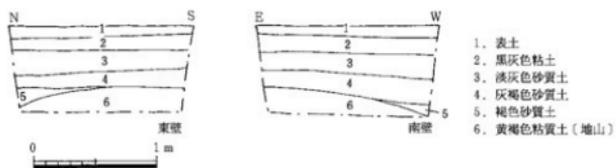


図-45 調査区位置図



1. 表土
2. 黑灰色粘土
3. 淡灰色砂質土
4. 灰褐色砂質土
5. 褐色砂質土
6. 黃褐色粘質土(地山)

图-46 土层图

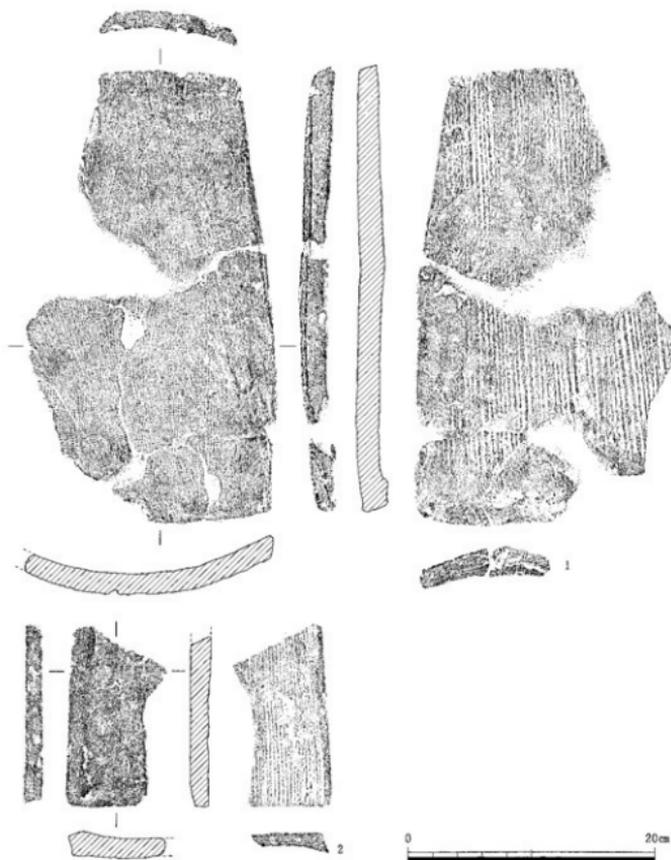


图-47 出土遺物



图-48 平尾山古墳群調査対象位置图

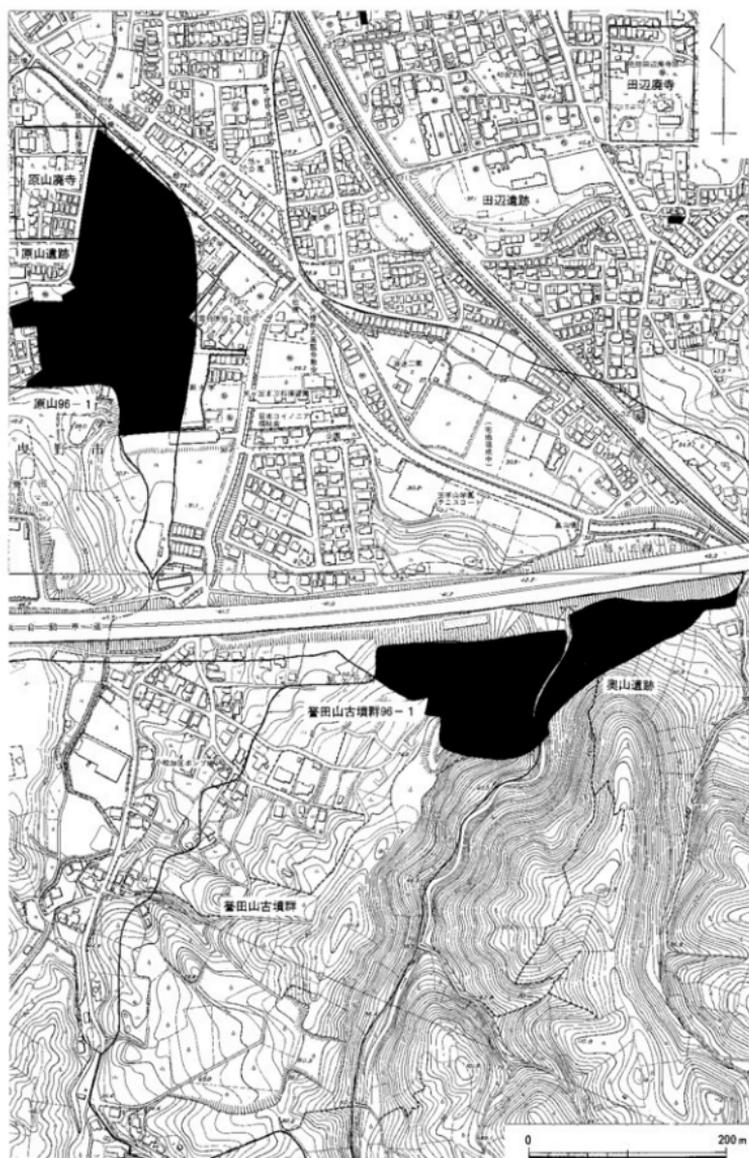


图-49 原山遺跡・養田山古墳群調査対象地位位置図

版 图



南から



北から



東壁土層

図版2 船橋遺跡96-2次調査



南から

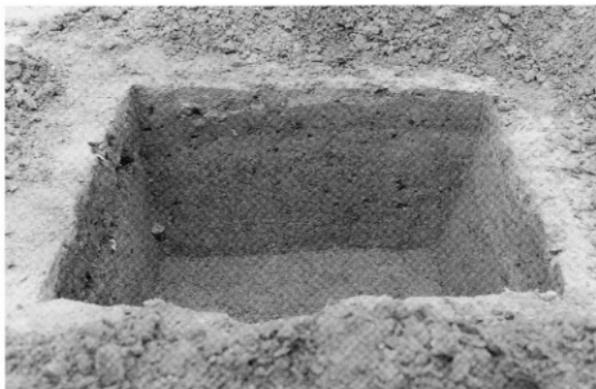


北から

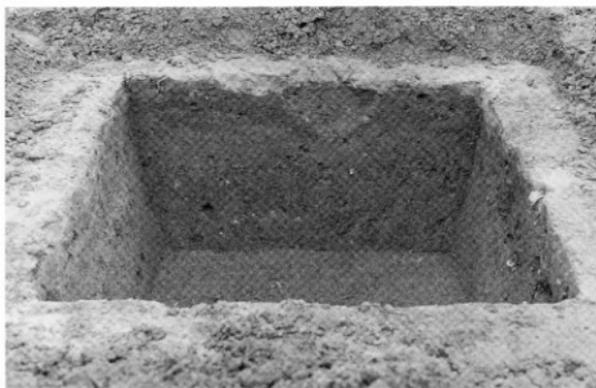


北壁土層

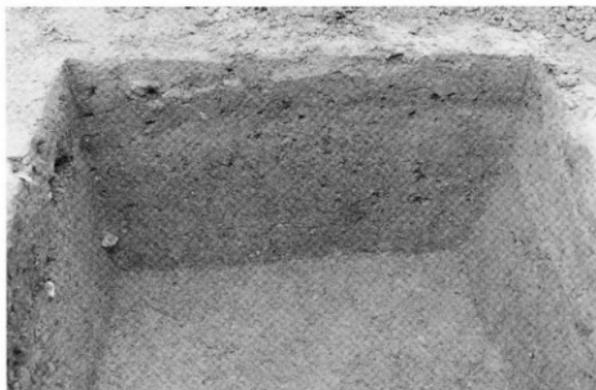
図版3 大泉遺跡96-1次調査



南から



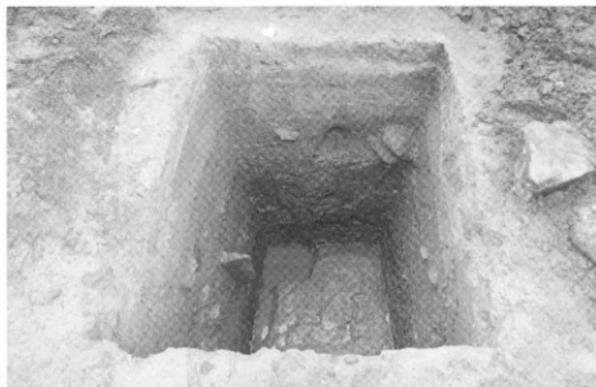
北から



北壁土層



南から



北から



東壁土層



1



7



15



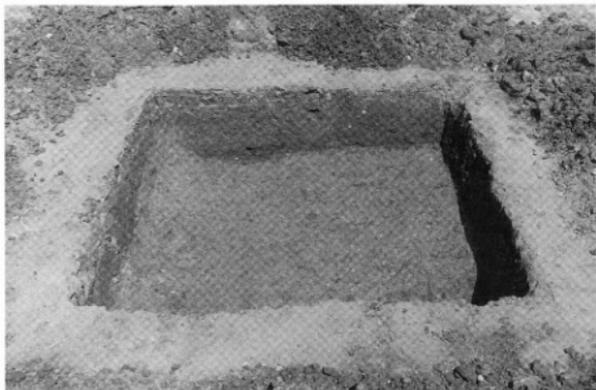
16



罎羽口



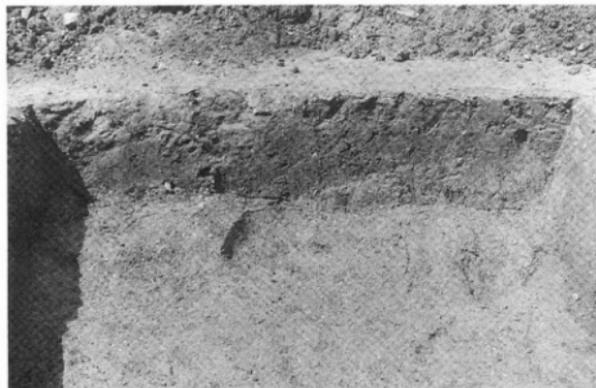
鉄滓



南から



北から



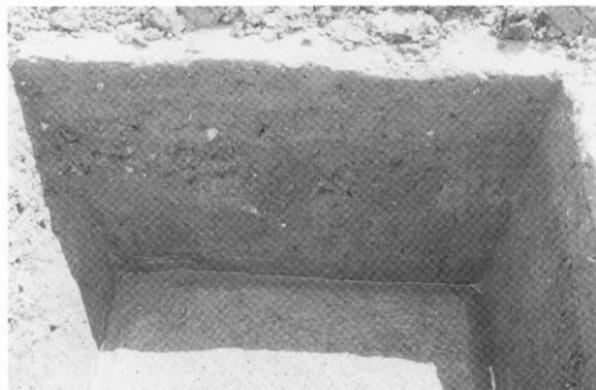
西壁土層



96-1次調査区
(南から)

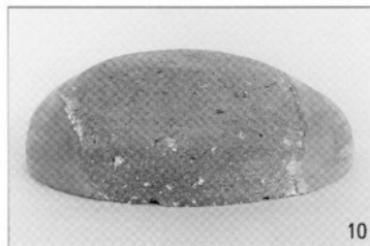
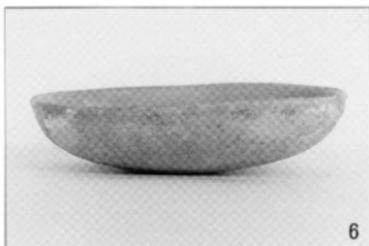


96-2次調査区
(南から)



96-2次調査区
(南壁土層)

図版 8 大泉南遺跡 96-1-2 次調査





南から



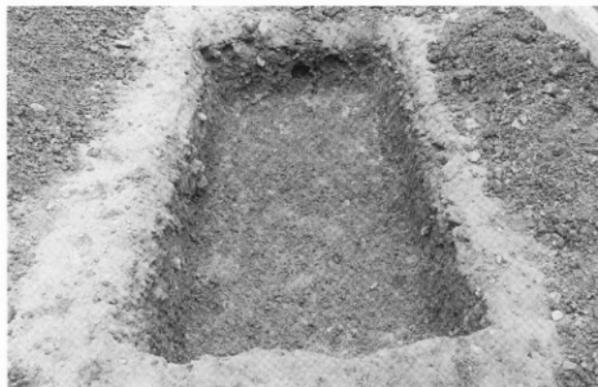
西から



北から



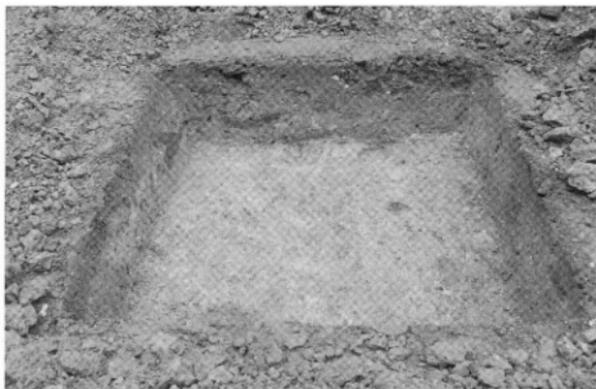
96-1次調査区
(東から)



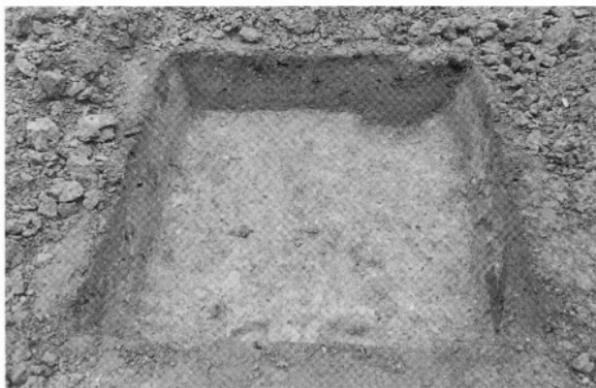
96-5次調査区
(南から)



96-6次調査区
(南から)



96-5次調査区
(南から)



96-5次調査区
(北から)



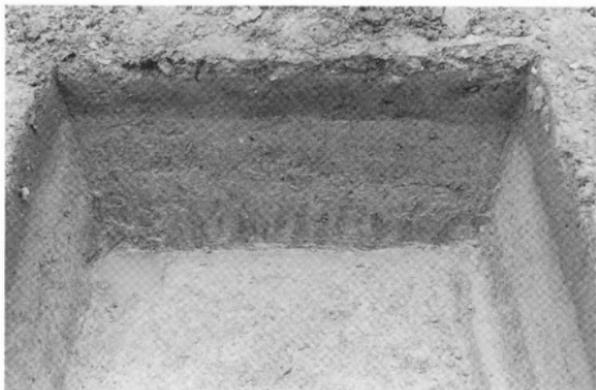
96-6次調査区
(北から)



南から



北から



南壁土層

報告書抄録

ふりがな	かしわらしまいぞうふんかざいほくつちょうさがいほう							
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報1996年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名	柏原市文化財概報							
シリーズ番号	1996- I							
編者者名	安村俊史							
編集機関	柏原市教育委員会							
所在地	〒582 大阪府柏原市安堂町1番43号 TEL 0729-72-1501							
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大阪府 本郷	大阪府柏原市 本郷5丁目	27221	HG96-1	34度 35分 12秒	135度 37分 06秒	19960417	2.3	個人住宅建設
大阪府 船橋	大正1丁目	27221	FH96-2	34度 34分 56秒	135度 37分 24秒	19961002	3.0	個人住宅建設
大阪府 大泉	早野2丁目	27221	OG96-1	34度 35分 23秒	135度 38分 08秒	19960312	2.3	個人住宅建設
大阪府 大泉	大泉4丁目	27221	OG96-5	34度 35分 15秒	135度 38分 03秒	19960826~ 19960828	3.0	個人住宅建設
大阪府 大泉	大泉4丁目	27221	OG96-6	34度 35分 10秒	135度 38分 09秒	19960919	2.3	個人住宅建設
大阪府 大泉南	大泉4丁目	27221	OGM96-1	34度 34分 58秒	135度 38分 11秒	19960219	6.0	個人住宅宅地 造成
大阪府 大泉南	大泉4丁目	27221	OGM96-2	34度 35分 06秒	135度 38分 08秒	19960412	2.3	個人住宅建設
大阪府 安堂	安堂町	27221	AD96-1	34度 34分 30秒	135度 38分 08秒	19960321	2.3	個人住宅建設

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺 跡 番 号					
玉手山	玉手町	27221	TY96-1	34度 33分 54秒	135度 38分 03秒	19960222~ 19960223	3.0	個人住宅地 造成
玉手山	玉手町	27221	TY96-5	34度 33分 55秒	135度 38分 00秒	19960520	2.0	個人住宅建設
玉手山	片山町	27221	TY96-6	34度 33分 59秒	135度 38分 03秒	19960520~ 19960521	4.5	個人住宅建設
田 辺	田辺2丁目	27221	TB96-5	34度 33分 21秒	135度 38分 44秒	19961111	2.3	個人住宅建設
田 辺	国分市場2丁目	27221	TB96-6	34度 33分 48秒	135度 38分 44秒	19961209	3.0	個人住宅建設
河内国分 尼 寺 跡	国分東条町	27221	KBNT96-1	34度 33分 42秒	135度 39分 02秒	19960904	2.3	個人住宅建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
本 郷	集 落	近 世	なし	土師質土器、陶磁器、寛永通宝				
船 橋	集 落	弥生~古墳	落ち込み	弥生土器、庄内式土器				
大 泉	集 落	古墳~中世	なし	土師器、須恵器				
大 泉	集 落	古墳~奈良	なし	土師器、須恵器、瓦、礫、鉄滓				
大 泉	集 落	中 世	ピット、溝、落ち込み	土師器、瓦質土器				
大 泉 南	集 落	古墳~奈良	なし	土師器、須恵器				
大 泉 南	集 落	古墳~中世	土 坑	土師器、須恵器、瓦器、鉄滓				
安 堂	集 落	近 世	なし	陶磁器、瓦				
玉 手 山	集 落	古 墳	なし	なし				
玉 手 山	集 落	古 墳	なし	土師器、埴輪				
玉 手 山	集 落	古墳~中世	なし	瓦、土師器、須恵器、瓦質土器				
田 辺	集 落	不 明	ピット	なし				
田 辺	集 落	飛 鳥	なし	土師器、須恵器				
河内国分尼寺跡	寺院跡	奈良~近世	なし	瓦、土師器、須恵器、陶磁器				

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1996年度

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582大阪府柏原市安堂町1番43号

電話(0729)72-1501 内線5133

発行年月日 平成9年3月31日

印刷 東洋紙業高速印刷㈱

